

1. 日 時 平成26年7月23日(水) 9時58分開会
11時00分閉会

2. 場 所 第2委員会室

3. 出席委員 野畑直委員長, 松元薫久副委員長, 石澤正彰委員,
竹原恵美委員, 濱崎國治委員, 鳥飼光明委員

4. 欠席委員 大田重男委員, 中面幸人委員

5. 事務局職員 議事係 寺地 英兼

6. 説明員 ・ 生きがい対策課
課長 早瀬 則浩 係長 中園 修

7. 会議に付した事件

- ・ 所管調査事項
- (1) 子育て支援対策について

8. 議事の経過概要

別紙のとおり

審査の経過概要

産業厚生委員長（野畑直委員）

ただいまから産業厚生委員会を開催いたします。本日は7月4日に行いました子供発達支援センターたんぽぽへの調査を踏まえて、生きがい対策課の調査を行いたいと思いますが、このような進め方でよろしいでしょうか。

〔「はい」と発言する者あり〕

それでは、そのように進めさせていただきます。生きがい対策課の入室をお願いいたします。

（生きがい対策課 入室）

生きがい対策課にご出席いただきました。

本日は、7月4日に伊佐市の子供発達支援センターたんぽぽへの視察の結果を踏まえて調査を行うものです。今後の調査の参考にできればと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

それでは、各委員より意見、質疑等ございませんか。

松元薫久委員

課長の手元にも、この間私たちがやりとり、向こう、伊佐市の方とのやりとりの資料があると思うんですけど、どのような印象を持たれたか。こうざっくりした質問ですけれども。気になった点があれば教えてください。

早瀬生きがい対策課長

伊佐市さんにつきましては、もう公立の、そこが主導的にといいますか、全体を、阿久根の場合はいろんな民間のそういう子育てのセンターがあるんですが、発達支援のですね。伊佐につきましては、公立のほうが全体的な部分で保健師も含めて一体的な取り組みができているということと、そこに専門員の配置といいますか、それが、十分な体制ができているなというふうに感じました。以上です。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかにありませんか。

竹原恵美委員

建物規模を見て、この前、前、課長が前任者のときにはほぼ同じというふうに聞いてたんですけども、今回伊佐に行ってみましたら、もう廊下に道具は出てしまっている。これは消防法じゃ通らないっていう状態までできてしまっていて、とにかく倉庫はどんどん手づくりもふえていくので欲しいと言われたんですけども、その辺の対応、建物の面積っていうのはどう考えているか教えてください。

早瀬生きがい対策課長

当初の設計で、450平米から500平米というような建物になっていたようであります。ちょっと待ってください。ですね、450から500というところで、その中に倉庫分というのが、やっぱり、伊佐市のほうを参考にしていますので、若干しかないと。そしてこじかのほうに確認しましたら、やっぱり、各部屋で使う道具といいますか、そういうものは廊下のほうに置き

てたほうがいいというようなことで、やっぱりそれは消防法上まずいというようなことも含めまして、各部屋ですね、その辺の面積が結構広すぎるという部分もあります。そこは今こじかの各担当者のほうにも自分の部屋として、例えば棚であっても高さがどれくらいなのか、90センチなのか、70センチなのか、そういう形で今みんなで検討していただいているところでありますので、基本的には500平米内で倉庫分も十分に賄っていきたいというふうに思っております。

〔竹原恵美委員「はい、わかりました」と発言〕

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかにありませんか。

濱崎國治委員

この建物の延べ面積については、いわゆる定数の関係が影響してくるかと思えますけれども、その定数関係、現在の定数を含めて整備されたらですね、この施設の活動状況にもよるんでしょうけど、かなりの方、迷っていらっしゃる方、あるいは行政のほうで発掘といいますか、そういうことで、この支援センターに通園される方等が若干ふえるような気もするんですけれども、その辺から見た建物面積というのはどうお考えですか。

早瀬生きがい対策課長

実は今のこじかの場合は、大きい部屋が一つと畳部屋が小さいのが一つ、この畳部屋のほうは相談室も兼ねているということで、今回新たにつくる施設のほうでは、保育室が4つ、これは子供たちの程度に合わせた形ということで、現在のこじかの利用状況をみますと登録者は40～50名いますが、週に1日の人、そして最高で週に4日の人というような形でそれぞれこの部屋の使い方も毎日すべてが埋まるということではなくて、その子供に合わせた形、それと、平均的に最大、一日平均20かなと、平均で20、登録で70～80ぐらいまでいくのかなというふうに思っております。

濱崎國治委員

伊佐のたんぽぽの園長さんの話では、要点記録のほうで120名のときは不足していたけど、80名程度であれば今の施設で十分かなということを回答していらっしゃると思います。それから、園庭についてもですね、園庭については狭いかなという、私どもが見ても園庭についてはちょっと狭いかなという思いもしたんですが、それからしますと、伊佐のこのたんぽぽについては960平米ですかね、阿久根は今500平米というのを想定していらっしゃるわけですが、それで、70名、80名だったら、今の施設からしてもほぼ充足するというお考えですか。

早瀬生きがい対策課長

現在のこじかからしますと、3倍弱の広さになります。そういうことで、十分に対応はできるということと、後は市内のほうにあと一つ発達支援センターアネックスがあります。そちらのほうは理学療法士とかいろんな専門的な方々もそろえてますので、連携すれば百数十名までは十分に受け入れられる、これは出水地区のほうも含めてですが、そういう形で考えております。

濱崎國治委員

この前、すまいるを視察してよかったなあということがあります。それは、

実は駐車場の関係です。今の赤瀬川の場所からすれば、保護者の方の送迎、あるいは職員の方の駐車場は十分取れるかなという思いがしてたのですが、今回折多のほうにということで、前の折多保育園をしていたころは、職員駐車場も近いところに借りられて、十分対応ができたということもあって、行政のほうのですね、向こうに変更されるということの英断についてですね、私は非常に良かったなという思いがしてるんですが、この前市長の説明でもありましたけれども、等価交換でという話がありました。それについては、課長が就任されてから協議されたんですか、それとも、前のところから協議というのか、されていたんですか、その辺をちょっと。

早瀬生きがい対策課長

実は4月以降に、一応こじかのほうと、私も以前みなみ保育園をつくったときの担当であったもんですから、その設計書を含めて、どういう形で配置して、動線ですね、どういう形で雨のときに車で来て降ろしていくんだろうと話し合ったときにどうしても場所がなさすぎると。結局園庭も取れないし、職員の駐車場自体もないということから、それで昨年度の委員会資料を見せていただいたときにお金がかかるからうちは買えないということであれば、等価ということと、それと後は代替施設について昨年度中にははっきりとどこの場所を代替施設に使うということは決まっていなかったということで、私なんかも公的な農政課の施設、後は教育委員会の青年の家、そして、我々の所の高齢者福祉センターそういう所を見て回りました。場所によっては3か月だけだったら使ってもいいよとかそういう中で、例えば3か所、4か所移動するとなりますと、その資機材を移動するというもののほかに、子供たち環境の変化、これがそれでいいんだろうかというようなこともありまして、最終、赤瀬川のこじかの周辺の土地を等価で交換できるような土地がないかというようなことで、今のホンダの裏のほうですね、ずっと探しました。面積的に十分な所もあったんですが、どうしても造成をしてもらってからでないと等価ができないと。それも当然、個人、個人の契約でありませんで、行政のほうがいつそれを買うという保証がない中ではですね、なかなか難しいってというような状況があったところなんです。そういう中で折多のほうからですね、旧折多保育園について場所をどうかというようなこともありまして、それで検討の結果、向こうとしては購入というような話も一部ありましたが、こちらとしましては、等価というようなことで、こちらのほうの試算もしたときに、大体同等程度の金額でありました。以上です。

濱崎國治委員

現在の赤瀬川のところにする利点といいますと、整備がすぐ行えるということが確かに言われたと思います。今から土地を探せば、必ず整備が遅れるので、それじゃあ困るということでの、今のところに建てる。それと代替施設について、公的施設でできるというような話がありました。公的施設が一年間、あるいは一年以上、果たして借りられるのかなという疑問はありましたけれども、行政のほうでそういうことであつたら、借りられるんだらうなという思いだったんですけれども、一方から言えば、一年間も借りられるということは、その施設自体はもう必要ないんじゃないかということの裏返しじゃないかなというのとも思いました。今回、整備があまり遅れなくて、

新しいところで整備できるということでの、そういう方針転換というのには、非常に良かったなという思いがしています。本当に今の赤瀬川のところであれば将来に禍根を残したのではないかなという思いがしたところです。以上で。意見になりますけれども。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかにありませんか。

石澤正彰委員

課長ね、私たちが勉強させてもらいに行った伊佐のほうにも当然、見に行かれたことがあると思うんですが、課長のそのどういうんですか、意気込みというか、私、こういう施設をおつくりになる、ものすごくいいことや、どこに移設してやる。それも一つの方法として、ね、選択の中身やと思うんですよ、だから、課長、所管課としての意気込みとして、伊佐に負けないようなものをつくるという意気込みはあるんですか。

早瀬生きがい対策課長

実は私20年ほど前、福祉にいたときに障がい児の担当でした。こじかの前身、月に1回ずつ保育所、幼稚園、老人ホームすべての職員の方々が出てきて、親子についていろいろと相談ってなったりとか、指導するような体制の中から、近年ではいろいろな指導体制も十分にできるような形になってます。そういう形で、このこじかというのが二十数年来培ってきたそういう情報網と親子関係、それによっていまだに出水地区も含めまして、阿久根のほうのこじかに来る親御さんも多いと、そういうことからしますと、1つにアネックスといいまして、専門的ないろんな肉体的なそういう指導もできる施設もあります。そこを有効に使えばですね、出水地区で伊佐には負けにくいものの、いろんな幅広い形の療育、結局心の教育までできるものというふうに思っております。

石澤正彰委員

そこら辺は、私も課長が福祉畑をずっと歩いてきたとかね、歴史を知りませんでしたので失礼な質問になったのかなと思いますけれども、ぜひね、なんで私がこんなことを言うかと言いますとね、阿久根市長がにぎわいを創出するということで、阿久根駅に大枚を投じてね、おやりになる。で、あわよくば、定住人口もふやしていこうという試みだと思うんです。だから、その対、負けずとも劣らないそういうどうせつくるのであればですね、子供を育てるんだったら阿久根がえらいよかつができたっていうことで、阿久根に引っ越してこられるようなものをおつくりいただいたほうがいいのかなと。市民交流センターも25億もかけてですね、つくるわけですから、これこそお金をかけるべきじゃないのかなというふうに私は個人的には思ってますのでよろしくお願いします。

竹原恵美委員

土地の等価っていう話なんですけれども、以前にもともと折多保育所ってというのは市が売却した、今、こじかのところに売却した経緯から、そして今折多保育所より周りも整備するんでしょうが、そのお金の動きってというのは、経緯から教えてもらえるといいなと思いますけれども。

早瀬生きがい対策課長

まず、等価分であります、旧折多保育園というのは市のほうが青陵会に売った土地で、2面、入り口のところの左側の小さい土地と、それと一体的な土地その面積と、赤瀬川児童館がほぼ同じ位の面積です。ところが実際宅地で家を建てるときとしますと、法面部分というのが赤瀬川児童館のほうが3割位あるということと、それと赤瀬川児童館につきましては、すぐ上のところの畑が宅地になってまして売りに出ています。そこを不動産屋に聞きましたら坪あたり15,000円ということで、それと計算した部分と折多のほうにつきましては、7～8年前ですか、青陵会に売却したときのその金額、それを比較したときに10万円位の違いだったというふうに考えております。その当時ですね、折多保育園につきましては、下の道路からの部分に駐車場用地として、これはあの青陵会のほうで借入をすると、年間数万円で借入をして、そこを駐車場にしていたということで、今後につきましても、またそのときと同じような形で職員用とかいう駐車場スペースはですね、そこにも十分貸していただけるというような話でした。ですからそこについては一切こちらのほうは駐車場部分についてはかかわりはないということです。

竹原恵美委員

ちょっとよく理解できないんですけど、その道路の途中の駐車場の部分は民間から借りている。これからもその民間から同じ金額で借り続けるという駐車場のエリアがある。で、上の部分、その建物、園庭の部分っていうのは10万円はみ出している、比較したとき10万円はみ出している部分はあるんだけど、等価という意味においては、まったくそれもなしということになったというふうにとっていいんですか、それとも、追い金というかまだその他に面積も広がったうんぬんのところで追い金がある、まだ支出があるというふうに理解したらいいんですか。

早瀬生きがい対策課長

実は、阿久根市の財産の交換、譲与、無償貸与等に関する条例というのがありまして、普通財産、次の各号のいずれかに該当するときは、これを他の同一種類の財産と交換することができる。ただし、価格の差額はその等価のものの価格の6分の1を超えるときはこの限りではない。というような条例があります。ですからあまりにも差がある場合はということなんですが、その6分の1に該当しないという6分の1内に収まるというような判断をしております。

産業厚生委員長（野畑直委員）

課長、（聴取不能）ほかに出てくるのかっていう。

早瀬生きがい対策課長

ということで、お金は一切出てきません。それと下のほうの駐車場部分というのは、折口地区の個人の方から青陵会自体が駐車場用地として、例えば1万円の畑をそこを年間3万で貸してくださいと、そういう契約されてましたので、それは上のほうの駐車場部分がどれだけ取れるか、それ以上に何かあったときということで、前の保育園からするとたぶん保護者数はそう多くはないと思います。それでも、まあできるだけ下のほうも前みたいに借りたほうが、その個人の方々も高齢者で土地自体はほとんど荒れたままというようなこともありまして、従来通り青陵会自体が土地は借りて駐車場にした

いということです。以前もそのような形で借りられておりました。

竹原恵美委員

伊佐市に行ってみて、その120人っていうふうにな人が集まってきたときというのはやっぱり利用度が高い、これからまた技術も進んでいけば、来たほうがいいという子もふえる、経過的にも割合が高くなっていく方向にあるので、ふえるだろうというところのコントロールはやっぱり先ほど言われた連携において、うまく連携しているからこの人数で収まって、学校に戻すこともできているっていうふうにおっしゃったんだけど、そこがなければやっぱり建物としては不足がちっていうようなことが差引のやりかけの関係だったように聞いたんですけれども、その構築というのはいかがなんでしょうか。

早瀬生きがい対策課長

実は先日、あいわの里の理事長のほうから電話がありまして、今の発達支援センター、あそこ定員が確か5名とかいうふう聞いております。建物自体はいろんな障がい者のサービスを提供する、その一部に発達支援センターをつくったということで、定員が5名ですから、たぶん登録者数でいくと、20名位しか登録できないのかなということで、今、待ちがあるような状況らしいです。そういうことから、再度増築をしたいということで要望書を阿久根市のほうに提出したいというようなお話がございました。ですからそこもあわせて実際に今のこじかが20ですから、向こうのアネックスのほうに10にするのか、それとも20位までもっていくのかですね、ただし、20までもっていくとなったら、今度は出水市なんかともちょっと協議も必要になってくるのかなというのもあるかと思います。以上です。

竹原恵美委員

定員は、阿久根市内では定員は、マスはこうふやすことができるけれども、連携関係、さっき石澤委員も聞いてましたけれども、意気込みというふうに聞き方をしましたけれども、伊佐市って鹿児島県内で一番住みやすいというランキングになったもので、その辺もあるのか、一つのポイントとしてあるのかなと。親がわざわざ連れてきてぜひ行かせてください、それくらい言われる環境つくってる。今、阿久根にとってそこと差がある、追っかけていきたいっていう部分ははっきり見えてきているんでしょうか。それで、人数コントロールができそうな状態にあるのかを教えてください。

早瀬生きがい対策課長

実はアネックスさんのほうともちょっと話したんですけど、一つにはこじかの場合は、卒業生なり過去に入れた親御さんとかいっぱいいらして情報を持っていっぱいあります。ところがアネックスの場合は専門員をそろえてはいるんですが、急にじゃあ施設ができて職員がそろったから全員そこに行くというようなものではなくて、どうしても、親の方々というのはいろんな選択、いろんな人からの情報を持って選択していくわけですから、今アネックスのほうにちょっとずつそういう形で対象者はふえてると、それと、当然保健師のほうに3歳児検診まで、そことのつながりも当初はなかなかアネックスさんのほうになかったというような、向こうがどの程度まで、どういう形で療育をやるんだろうというその辺もあったと思うんですが、最近ではきち

んとその辺当初からアネックスさんのほうも入っていると、こじかも当然入っていますが、そのうえでうちの子育て支援センターのほうで各親子教室があります。その中で少しずつそういう発達遅滞があるお子さんについてはこじかのほうというような形をですね、それでもやっぱりなかなか親自体が行かないという方もいらっしゃると思います。そこは、結局、今、保健師、そしてうちの子育て支援センター、そしてこじか、アネックスというところで連携してやっていけば十分に伊佐の機能と同じような形ですね、できるものというふうに思います。

竹原恵美委員

聞きましたのは、こじかの建物でこれからこじかが同じような、伊佐みたいに同じような80人が120人、やり方、コントロールを間違えばまだふえるっていう、待ちがふえる可能性だってあるような状態の中でどうやって回すかっていう努力をされたように聞いたので、じゃあ、今、阿久根、こじかが伊佐のようにコントロールできる状態に持っていけそうなのか、それとも同等にアネックスも利用しながら、今すでに同等のレベルで回転させることができる、人を動かす、数をコントロールできるという状態にあるとおっしゃるのか教えてください。

早瀬生きがい対策課長

なかなか、こじかとアネックスだけではなくて、出水のほうもあります。現在、阿久根から出水に行ってる子供はいないんですが、向こうからこちらのほうにはあると。これはアネックスについても同様です。ですから全体、今度こじかの場合は、発達支援センター事業からセンター化のほうにいきますので、当然出水のほうでも保育園、幼稚園そういうところまではいっていくということで、全体的なレベルを上げるためのそのセンター化を目指すということで、従来はこじかの中だけで、結局希望された方への提供であった部分から、これ、出水地区全体、長島も含めての体制づくりですから、決してこじかだけがいい療育するからみんな来てくれではなくて、各地域の中、そしてできましたら保育園、幼稚園っていうのはその子供たちがそのままその地域の学校に上がるわけですから、できたら地元に戻してやるという方向をつくっていかなければならないのかなと、結局、友達関係ですね、子供の、療育はいくら阿久根で良くても、出水のお子さんだったらできればその小学校区に近いところの療育を、だからその質を上げるために支援センター化して、こじかはやっていくんだと、そういうふうに理解しております。

竹原恵美委員

明確に言うと、伊佐に対して阿久根の今の連携状態がキャッチアップしなきゃいけない部分っていうのはあるんですか。その、向こうのほうで連携がうまいとか、何かがうまいところがあって、学ばなきゃいけない部分っていうのが明確に見えてる部分があるんでしょうか。

早瀬生きがい対策課長

当然、伊佐市の場合は、公立が1本でやれる部分もすべてやっていく、それと比較しまして、阿久根の場合は民間もありということで、実際に民間が今から信用を受けてあがってくる中で、じゃあこじかだけが人気をもってという話もひとつは経営という部分もありますので、こじか自体が目いっぱい

受けてどうなるというものでもないといえますか、最終的には各小学校区のほうでですね、きちんとした療育ができて学校にあがれる。その下地をつくるための指導をおこなっていく。そういうところがこじかだというふうに思っておりますので、こじかにそんな100も200もということにはなかなか方向づけとしてならないのかなというふうには思います。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかに、ありませんか。

石澤正彰委員

早瀬課長、ひとつだけこれまとめたやつ（要点記録）を手元にありますよね。今、こう見とって私も気づいたんですが、20ページ最後のところですが、たんぼぼの園長がですね、20年くらい前に大阪の吹田に見学、勉強さしてもらいに行きましたというお話があってですね、それに対して、伊佐市はそれにもう追いつきましたかと質問したら、追いついたと思ったけど、また去年行ったらですね、さらに進化しとったっていう答えがあったんですよ。やはり、それは結局計画しておやりになる人たちがその謙虚な気持ちでね、やることが非常に大切かなという気がしました。私らも産業厚生委員会の委員としてはですね、ほとんど素人なわけですよ、だから希望を言うしかないし、最終的に新たにできたところがどこが受け皿になるからそこをもうけさしてやろうとか、そういったことやなくて、子供たちのためにね、ということで、たんぼぼの園長もおっしゃったと思うんですよ。そこらへんをしんしゃくしていただいて、お願いするしかないのかなと思いますので、よろしくお願いします。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかに、ありませんか。

鳥飼光明委員

いろいろ意見がでましたけれども、私は今の赤瀬川の土地を反対した一人ですけれども、今ほっとしております。ただ、今聞いておりますと、駐車場が借地だとかいうことですが、こういう施設は永久と言えおかしいですが、相当続くわけですから、その駐車場は買えないのかどうか、ま、年配の方であれば売ると思うんですが、買えないのかどうか、ちょっと1点だけお尋ねします。

早瀬生きがい対策課長

一応、昨年の時点で土地については購入をしないという話になってますので、従来どおり青陵会のほうに借りていただく中で、当然その借地料というのは市の委託料の中に入ってきます。ですから、そこについては市長のほうに伺いを立てて、市で今で買ったほうがですね、そのほうがいいかなという部分につきましては検討させていただきます。

鳥飼光明委員

今、検討ということですね、ぜひですね、買っていていただいて、その借地料と、そういうのじゃなくて、もう折口区もですね非常に年寄りになってしまいます。土地を管理するのが大変な時代になってきております。そういうことからして、本人は本当は買っていていただく、そういう希望もあるかもわかりませんのでね、やっぱり交渉してみられたらどうかと思っております。そ

うしたら、全部が市の土地ですから、安心ですので、そういう交渉をしていただくようお願いしておきます。以上です。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかにありませんか。

竹原恵美委員

今の駐車場の話、上の整備をして敷地でどんなふうにもその駐車場利用ができるのかという様子を見るというのも先ほどありましたよね。それで、また下があるのかいないのかをそこで違いが、現実的には違いが出てくるということはまた管理されることだろうと、回答いただきました。ありがとうございます。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ま、ちょっと進めてみて、昨年我々の委員会の中で土地は購入してまではしないんだという赤瀬川にあるからということでしたので、この意味を含めて今執行部のほうとしては検討していくという、我々の逆に委員会のほうでもそういう話が出たらやりやすいということにもなるんじゃないかと思えますけど、購入してでもという話になればですね。それは建築して、おいおいまた今後検討していただければと思います。それで、その購入の問題がどうなるかというのは、今後の検討課題ということで課長いいんじゃないかと思えます。

ほかにありませんか。

松元薫久委員

1点だけ、このまま順調に進んでいけばですね、いつ、今のところいつごろ完成予定となるのかというのだけ聞きたいんですけれども。

早瀬生きがい対策課長

今、設計のほうに今から入っていくということで、新年度の予算のほうには、遅くとも1月ぐらいまでには金額が上がらないといけません。そして4月になりましてから、入札になるんですが、これと並行しまして木づくりの補助金のほうのこの辺の内示がいつごろ出るかによりまして、ちょっとその辺を見ながらでありますとどうしても契約自体が7月、早くてもそういうころなのかなと、そして工事自体が9月から始まったときに、2月、3月ぎりぎりになってしまうというふうに今のところは考えております。

松元薫久委員

ということは、子供たちが新しいその園舎に入っていけるとというのが、今の説明だと28年度の春からということになるんですか。

[早瀬生きがい対策課長「はい」と発言]

わかりました。

竹原恵美委員

完成と、3月に完成して、その入居ということはすぐにできるっていうふうにこちらは期待していていいという状態の話ですか。

早瀬生きがい対策課長

27年度中は、折多のほうに移ったわけですから、こじかは今のところでは来年までずっとやっております。できるだけ、2月末ぐらいまでには当然完成さして、そして3月の中旬ぐらいまでにはですね、すべて荷物なんかを運

んだうえで、赤瀬川児童館のほうも結局更地にして等価交換ということになりますので、それを同一年度内で済むのかというところがちょっと今のところですね、問題があるところです。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかに、ありませんか。

〔「なし」と発言する者あり〕

なければ以上で生きがい対策課への質疑を終了いたします。

（生きがい対策課 退室）

以上で生きがい対策課への調査は終了しました。ここで、子育て支援対策について、みなさんのご意見がございませんか。

濱崎國治委員

今、２８年度からなんとか新しい施設で運営できるような話をされました。この、我々委員会もですね、この前伊佐に行って施設だけじゃなくして、中身の管理運営をどうされるかがですね、この子供発達支援に対する委員会のかかわり方だというようにも考えます。それからしますと、今後も施設整備だけでなく、中の運営面についてもやはり委員会として関与してというのはですね、かかわって意見を述べられるようにですね、今後もしていったらというふうに思います。特に施設ができたらずね、人材確保というのもですね、非常に大きなウェイトを占めているのではないかなと思ひまして、例えば中の職員の方の待遇面を含めてですね、それもありますので、今後も産業厚生委員会でこの発達支援センターについてはいろいろ意見を述べられるようなそういう体制も必要ではないかなというのを感じたところです。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかに、ありませんか。

松元薫久委員

今、濱崎委員とほとんど同じ意見なんですけれども、やはり今後、今阿久根市と伊佐市の状態、現状は少し違うところもあってですね、体制的にですね、伊佐市は公が積極的に療育をサポートしてきたんですけれども、阿久根市はやっぱり民間のところもあるということで、ある程度センター化に向けて連携は取れて、取り始めてはいると感じているんですけれども、やはり、我々議会として委員会としてもですね、伊佐市の話聞く限り、政策的なサポートも今後必要になってくると思いますので、そういう部分では委員会で引き続き子育て支援についてテーマとして取り扱っていくべきなんじゃないかと思います。何より療育が必要だと保健師から言われるですね、お母さんたちの声をですね、中心に聞きながら政策に反映できるような向き合い方でやっていきたいなと私は感じております。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかに、ありませんか。

今、ちょっと確認をしますけれども、今後の中身の運営について議会として、産業厚生委員会もかかわりを持ちながら伊佐市のような公が中心になっていくような発達支援センターになればいいというようなお二人の意見だったと思いますが、そのような考え方でよろしかったですかね。

石澤正彰委員

委員長、ちょっと休憩。いいですか。

産業厚生委員長（野畑直委員）

休憩に入ります。

（休憩 10：37～10：41）

産業厚生委員長（野畑直委員）

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。子育て支援対策については今後また調査の内容を含めて協議をお願いしたいと思います。

次にその他ですが、今回の調査内容について、今まで産業厚生委員会の取り組みとしての問題点がありました。そこで、ちょっと休憩に入ってその内容を説明したいと思います。

（休憩 10：42～10：55）

産業厚生委員長（野畑直委員）

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。今後の産業厚生委員会の取り組みとして、みなさん方からの意見を伺いたいと思います。

濱崎國治委員

阿久根市にとって水産業の振興をすることは、町おこしの一つの大きな課題だというふうに思います。そのため、6次産業化に直接的にはどうかなという思いもしますが、栃木県のほうで温泉水を利用した養殖業をやって町おこしをしているというのが紹介されております。これをですね、ぜひ視察に行って、できたら私どもがこれを理解して、阿久根市でももし取り組みができるとしたら大きな前進だなという気がしますので、ぜひここを先進地視察できたらなというふうに思います。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかに、ありませんか。

松元薫久委員

もう1点別のテーマとして、道路河川の危険個所の整備対策についてということで、現状なかなか審査が進んでないというのがありますが、今現在の危険個所の一覧の資料を所管課からいただいて、それに目を通して今後どうするか検討をしていくという流れでいいのかなと思うんですが。

竹原恵美委員

その、岐阜県の研修、調査のことなんですけれども、まずは阿久根に対して取れる資料、行くんではなしにここで取れる資料がどうなのか、また事業を興すためには公共がけん引してやるというのは正直長続きしないものであって、すべてを仕立てることはできないので、そういうふうに地場が要望がある状況が、準備があるという状態まであるのか、調査を阿久根の中でしてから、阿久根でおってコンピューターなんかで取れる資料なんかを集めて適合しているのかをよく調査をしてからがよいのではないかと思います。

〔濱崎國治委員「これは栃木です」と発言〕

産業厚生委員長（野畑直委員）

今、濱崎委員と松元委員のほうから、意見については濱崎委員のほうは6次産業化につながるのではないかと思う意見でありました。それから松元委員から市内の危険個所についての資料請求ということで意見がありました。

お互い2件ともですね、資料を徴収を進めて、そしてみなさん方に配布をした後にまた日程等について今後は進めていきたいと思うんですが、竹原委員のほうからも資料をもうちょっと集めてから所管事務調査ということになるのか、ならないのか判断したほうがいいという意見もありますので、そのように資料徴収を進めたいと思いますので、そのような進め方でよろしいですか。

〔「はい」と発言する者あり〕

それでは、資料徴収することとし、資料請求等の事務手続きは委員長に一任いただきたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と発言する者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。資料が集まりましたらご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

次回委員会の日程につきましては、後日連絡いたします。

以上で本日の産業厚生委員会を散会いたします。

（散会 11：00）

産業厚生委員会委員長